

縦組みでの漢数字について

命数法と記数法の混在表記のすすめ

漢数字の表記方法は二種類あり、一つは《命数法》、もう一つは《記数法》と呼ばれています。

《命数法》は「十字式」とも呼ばれ、十、百、千などの桁の漢字が混じった表記法です。

明治から昭和初期あたりまでの書籍には数詞がすべて《命数法》で書かれたものがありますが、令和の今日「母が生まれたのは一千九百四十七年だ」と書くのはさすがに厳めしすぎるでしょう。

《記数法》は「^{イゼロ}一〇式」とも呼ばれ、桁の漢字は使わずに、「一〇」「一〇〇」「一〇〇〇」と記述する方法です。

もっとも簡易なやり方はすべてを《記数法》で記述することです。注意点は「熟語、ことわざ、慣用句などは国語辞書での表記に従う」ことくらいでしょう。

ただし、「一一」は「一二」に、「一二」は「三」に誤読されやすいという欠点があります。また、巨大な数字になるとハイフンのない電話番号のように読みづらくなります。

それぞれの欠点を補うため、一橋大学社会学科編集部編『漢数字表記について「縦書論文の場合」』、および日本エディタースクール編『標準編集必携』の漢数字表記法を参考に、《命数法》と《記数法》を混在させた以下の表記ルールを推奨します。

●二桁の数字には命数法を使う

- 例 十二月二十一日
二十一世紀 三十三歳

●三桁・四桁の数字の場合

三桁・四桁の数字で、ゼロ以外の数字を二つ以上含むときは桁の漢字を使わない。

- 例 二〇二三年 一八〇〇冊 三六五日

●長大な数字には、万・億・兆を入れる

- 例 六三四億五二〇〇万八九七六ポンド
二五〇兆八五〇〇億光年

●概数を示す数字は命数法を使う

- 例 約百人 ほぼ五千件
村の人口はおおよそ三百人である

●「読点」を桁の記号として使わない

「四、五〇〇（四〇〇〇五〇〇の意）」などの表記と区別がつかなくなるので、連数字処理による対応（読点を桁の記号とした場合、左の例のように字詰めする）では見分けづらい。

- 例 × 五、八三〇円
○ 五八三〇円

●熟語、ことわざ、慣用句などは国語辞書の表記に従う

- 例 数十 五十歩百歩 十人十色
千夜一夜物語 二・二六事件

●数字を比較する場合は記数法での統一を許す

- （横組みの図表にして欧文数字を使うのが望ましい）
例 死者／四三人 重軽傷者／一三九人
A村／九八戸 B村／一三〇戸

●欧文読みの数字にはアラビア数字を使う

- 例 ミグ15 マウザーBK27
G20会議 G7サミット

●小数点を伴う数字には《記数法》を使う

小数点以下の数字に「〇」が含まれることが多いので。

- 例 四二・一九五キロメートル
〇・〇〇一パーセント

（追記 二〇二三年七月二十五日）

改訂 二〇二三年七月二十五日
スタジオカタチ 玉川祐治